

# 常松大谷遺跡 つねまつおおたにいせき & 常松菅田遺跡 つねまつすがたいせき

とほ  
**土馬（土製の馬）が見つかりました！**



つねまつおおたに  
常松大谷遺跡では、奈良時代後半（約 1,250 年前）ごろの、土を焼いて作った馬のミニチュア製品「土馬」が見つかりました。土馬は単なる馬の「おもちゃ」ではなく、雨乞いや病気にかからないようにする病除けなどの「まじない」の際に、馬の形代（やまいよ きた馬の身代わり）として使われたと考えられています。このような「まじない」で使われる形代は、わざと壊すことによって、その目的をとげると信じられていました。この土馬も、頭の上にたてがみが表現されるなど精巧に作られています。足や尾が欠けた状態で出土しています。また、馬の形代（うまがた 馬形と言います）としてはこの他にも、木で作られたものが良田平田遺跡で見つかりました。こちらは人の病気や災難などを乗せて遠くへ運んでもらって、汚れを祓うという「まじない」に使われたと考えられています。

今回見つかった土馬に託された当時の人々の願いは、無事かなったのでしょうか？



良田平田遺跡で見つかった  
木製の馬形：右が頭です。



# 鳥取西道路の遺跡を掘る！

第 54 号 2013 年 10 月 23 日

植物素材の道具は、県内では鳥取市青谷上寺地遺跡等、低湿地の遺跡で出土していますが、鳥取西道路の発掘調査でも縄文時代から弥生時代のものがたくさん出土しています。



## 手箕のはなし

県内の遺跡を発掘調査していると、思わぬものに出会うことがあります。現在調査を進めている金沢坂津口遺跡で見つかった植物を素材とした編み物製品もその一つ。

今回見つかったのは弥生時代の「手箕」です。この手箕は、ひご状の細い材と幅の広い樹皮材を「ござ目編み」という手法で丁寧に編みこんで作られています（右図参照）。縁の綴じ方がよくわかる点でも珍しい資料といえるでしょう。

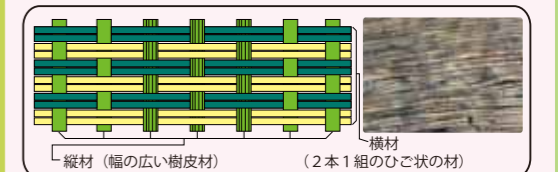
手箕は、現在では土や石を運ぶために使う道具としてホームセンターなどでも見かけますが、もともとは、お米やアワやヒエといった穀物類の殻と実をより分けるための「風選」という作業にも用いられていました。

現在の手箕は、プラスチック製のものが多いのですが、昭和の高度成長期までは遺跡で見つかるものと同じような植物性の素材が主に使われていました。

水に浸かったままの条件でないと、多くの場合腐ってなくなってしまうこうした植物素材の道具。土器や石器だけではわからない弥生人の豊かな生活文化と手仕事の巧みさを私たちに示してくれています。



弥生時代の手箕（金沢坂津口遺跡）



図解！ござ目編み



現在の手箕（左：竹製 右：プラスチック製）  
プラスチック製のものは編み組みの名残がスタンプされています。

# 下坂本清合遺跡 しもさかもとせいごういせき

川の底からソックソクと



下坂本清合遺跡では、多くの川の跡が見つっています。現在掘り下げているのは鎌倉時代（約 800 年前）の川で、幅約 30m、深さ約 1.3m と調査区内では最も大きなものです。

川の中からは、当時の人々の暮らしの様子がわかる様々な遺物がぞくぞくと見つかりました。



←まずは下駄です  
地面に当たる歯の部分の長さは約 6cm あり、先が磨り減っています。当時の人が使った様子がうかがえます。



↑最後は土製の鍋です  
当時の人たちも、お鍋をかこんでいたのでしょうか？



←次は人形です  
今回の調査 2 点目！穢れや災いをこの人形に移し、厄払いをしていたようです。腰のくびれやつま先まで精巧に作られています…！足ながっ！？



これから更に古い時代の川の跡を掘り下げます。はたして一番古い川はいつの時代でしょうか？

(公財) 鳥取県教育文化財団  
調査室  
〒680-1133  
鳥取市源太 12 番地  
TEL : 0857-51-7553  
FAX : 0857-51-7550  
メールアドレス：  
tottori-kyobun@kyobun.  
sakuratan.com

発掘通信

10月19日に行った下坂本清合遺跡の現地説明会は、84名の方にご来場いただき、盛況のうちに終わりました。ご参加いただいた皆様、ありがとうございました。これに続いて、11月2日には松原田中遺跡の現地説明会を行う予定です。是非お越しください！

鳥取県教育文化財団 調査室

検索

# 桂見鍋山遺跡

かつらみなべやまいせき



## 古墳時代の田んぼあらわれる!!

8月から調査を行っている1-1区に加え、すぐ西側の1-2区の調査も始まりました。

両方の調査区を掘り下げていくと、泥炭層（枯れた植物が長い間あまり分解されず堆積した層）の下から古墳時代前期（約1,700年前）の田んぼの畦が顔を出しました！

その結果、1-1区では大小の畦で田んぼを区画していた様子が明らかになりました。一方、1-2区では大きな畦は見つからず、小さな畦で区画した田んぼだけが見つかりました。

これらの田んぼは見つかったばかりなので、今後の調査で新たに稲作に関連した遺物などが出てくるのでは…？



# 良田中道遺跡

よしだなかみちいせき



## 天災は忘れた頃にやってくる!?



川跡の断面



川跡

左の写真は、縄文時代終わり頃（約2,500年前）の川跡の断面を拡大したものです。

川は水の勢いが強いほど大きな石を下流に運ぶので、川の上流には大きな岩がごろごろしていますが、水の勢いが弱い河口に近くなると細かい砂や粘土が積もっているのをみなさんはよくご存じかと思います。

写真一番上の地層には大きな石から細かい砂までよく混ざっているのが確認できます。これは普通に川を流れてきたものではなくて、大雨などの時に一気に土砂が押し流された痕跡だと考えられます。

川跡の隣の山をふと見上げるとよく似た土砂が存在しています…(左下の写真)。これらの土砂は周辺の山が崩れたものだったのでしょうか。

自然災害はいつ発生するかわかりませんが、災害に対する心構えは普段から持っておきたいものです。

# 金沢坂津口遺跡 & 松原田中遺跡

かなざわさかつぐちいせき まつばらたなかいせき



## 調査も一区切り!!



縄文時代から弥生時代の地層



砂から見つかった土器

5月から11月末までの予定で開始した調査も、いよいよ後半戦。8つある調査区のうち、西側の4つを8月いっぱい終了しました。

左の写真は、前半4つの調査区の終了間際に見つかった縄文時代から弥生時代の地層の様子です。綺麗な縞模様がたくさん見えますが、これは「ラミナ」といって、洪水などの水流によって運ばれてきた土砂が積み重なったものであることを示しています。

これらの調査区は、人間活動の跡が認められなくなった所で調査を終了し、現在は後半戦を開始しています。

次はどんな発見があるのでしょうか。乞うご期待!!

土砂の中からは、縄文時代後期(今から4,000年ほど前)の土器が、ほぼ半分に分れた状態で見つかりました。縄文人が洪水からあわてて逃げたときに落としたのでしょうか。



こんなに深くなりました!!

# 松原田中遺跡 (1区)

まつばらたなかいせき



## 古墳時代のムラの跡を調査中! (〇〇)

1区では古墳時代のムラの跡を調査中で、溝や多数の柱穴が見つかっています。このうち、古墳時代前期（約1,700年前）の溝の中から壺や、煮炊きを使う甕、壺などをのせる器台といった土器がたくさん出土しました。これらの土器は粉々に割れていて、石や木片とともに炭混じりの土から出土しています。ムラの祭りなどで使われた後、溝に投げ捨てられたのかもしれない。



3重の同心円文がスタンプされた器台



溝の中から土器がザクザク...

他の溝からこんな弥生土器も出ています...



古墳時代前期の溝 (南西から)